

# 特集 環境分野における特徴的な取り組み

## 1 脱炭素都市づくりに向けた取り組み

本市では、令和3年3月に策定した「仙台市地球温暖化対策推進計画2021-2030」に基づき、市民・事業者・行政が一体となって、地球温暖化対策を進めています。

令和3年度は以下のような取り組みを実施しました。

### (1) 事業活動における温室効果ガス排出削減の推進

#### ① 温室効果ガス削減アクションプログラムの推進

市域の温室効果ガス排出量の約6割を占める事業活動からの排出を削減するため、「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき、事業者と市が協働して計画的な温室効果ガス排出削減に取り組みました。令和3年度末現在、特定事業者90事業所、一般事業者206事業所が参加しています。



#### ② 中小企業者等向けの補助金

温室効果ガス削減アクションプログラム参加の中小企業者等向けに、省エネ・再エネ設備、次世代自動車の導入に対し、合計21件の助成を行いました。



LED照明設備▶



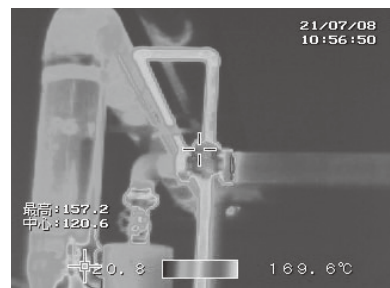
LPGハイブリッド車▶

#### ③ アクションプログラム参加事業者への訪問助言

外部専門家と市職員が事業所を訪問し、業種業態に応じた排出削減につながる助言を行うなど、事業者の取り組みを支援しました。例えば、鉄鋼業の洗浄過程で使用されるお湯の蒸気圧力低減の検討に関する助言や、熱画像装置(サーモショット)を用いて蒸気配管の表面温度を測定し、バルブ等の断熱強化や配管表面温度の定期的な確認による管理等について助言を行いました。



蒸気ボイラー▶



熱画像写真▶

### (2) 家庭における温室効果ガス排出削減の推進

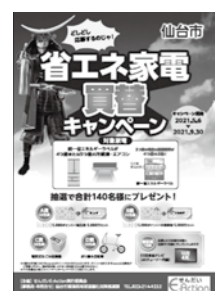
#### ① 省エネ家電買い替えキャンペーン

古い家電を省エネ性能の高い家電へ買い替えた方に、抽選でicscaポイント等の景品が当たるキャンペーンを実施し、325件の申し込みをいただきました。

キャンペーンの対象となる家電には、家庭における電気使用量の割合が高い冷蔵庫及びエアコンを選びました。

15年以上前の冷蔵庫・エアコンを省エネ性能の高い製品に買い替えると、電気代が年間で1万円以上安くなることもあります。

キャンペーンチラシ▶



## ②ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)普及促進補助金

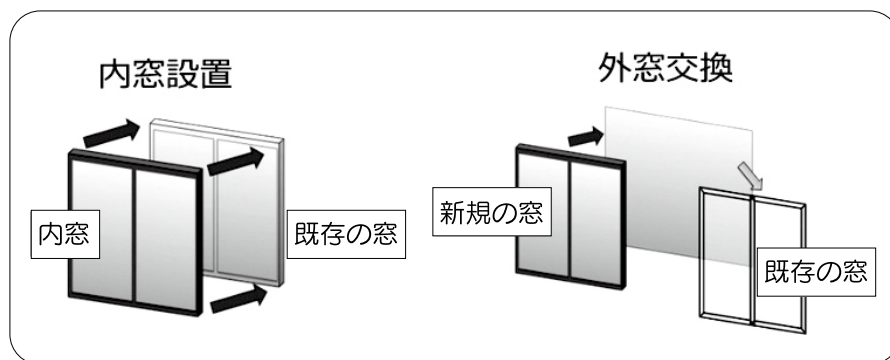
ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)\*の基準を満たす住宅に設置される太陽光発電システム等の導入に対し助成を行い、28件の申し込みをいただきました。

\*ZEH(ゼッチ)とは、断熱性能の向上や省エネ設備の導入により、使用するエネルギーを減らした上で、太陽光発電等の再生可能エネルギーを導入することで、年間のエネルギー消費量の収支がプラスマイナスゼロとなることを目指した住宅のことです。

## ③熱エネルギー有効活用支援補助金

住宅において熱の流出・流入が大きい開口部(窓等)の断熱を進めるため、住宅や事業所等の窓を二重窓等にする窓断熱改修に対し、293件の助成を行いました。

また、都市ガスやLPGを燃料として発電を行い、発電で発生する熱でお湯を沸かすエネファーム(家庭用燃料電池)の導入に対し、43件の助成を行いました。



▲窓断熱改修



▲エネファーム

窓の断熱改修方法には、既存の窓に追加で窓を付ける内窓設置や、より性能の高い窓に取り換える外窓交換等の方法があります。

## 2 資源循環都市づくりに向けた取り組み

本市では、「仙台市一般廃棄物処理基本計画」(計画期間：令和3年度～12年度)に基づき、資源循環都市づくりに向けた取り組みを推進しています。

令和3年度は、以下のような取り組みを実施しました。



### (1)プラスチック資源循環の推進

#### ①使い捨てプラスチックの削減

令和4年4月からの「プラスチック資源循環促進法」の施行に先行して使い捨てプラスチックの削減を図るため、市民のマイボトルの利用促進に向けた取り組みを実施しました。

「持とう・使おう マイボトルキャンペーン」として、10月～11月の期間で、小売事業者等との連携により、マイボトル持参による割引サービスやマイボトル特設販売コーナーの設置のほか、店舗への啓発ポップの掲示、特設ホームページを通じた情報発信等を行いました。

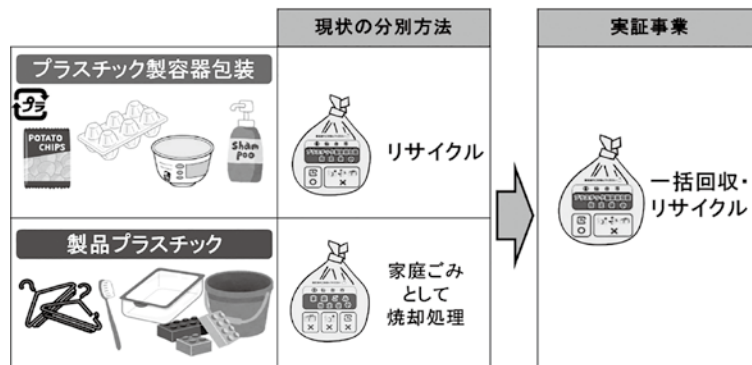


▲マイボトルキャンペーン 啓発ポップ

## ②製品プラスチック一括回収・リサイクル実証事業

本市では、家庭ごみとして焼却されているハンガーや歯ブラシ等の製品プラスチックを、プラスチック製容器包装と一括で回収し、リサイクルする実証事業を令和2年度より実施しています。令和3年度は、地区・期間を拡充して実証を行い、リサイクルにおける技術的な課題等について検証を進めました。その結果、排出される製品プラスチックは形状や素材が多岐にわたるものの、リサイクルに支障がないことが確認されました。また、住民アンケートでは、約8割の方から、「分別がわかりやすくなった」、「今後の本格実施を望む」との回答をいただきました。

この結果を受けて、本市では、令和5年4月からの全市展開に向け、必要な準備を進めるとともに、令和5年1月からは、一部地域において一括回収・リサイクルを先行実施する予定としています。



## ③ペットボトルの水平リサイクル推進

プラスチック資源の有効利用に向けては、繰り返し再利用が可能な「水平リサイクル」のように、質の高いリサイクルの推進が重要です。本市では、令和3年10月に株式会社伊藤園およびティーエムパック株式会社と連携協定を締結し、家庭から収集した使用済みペットボトルを、年間約1億本のペットボトルに水平リサイクルして循環利用する取り組みを、令和4年4月から開始しています。

また、資源循環を「見える化」するため、リサイクルされたペットボトルの一部を利用し、本市のごみ減量キャラクター「ワケルくんファミリー」がデザインされた特製ボトル飲料が、令和4年5月より市内の自動販売機、一部小売店で販売されています。

「ワケルくん」デザインボトル▶



## (2)食品ロス削減の推進

### ①食品ロス削減キャンペーンの実施

家庭における食品ロスの削減に向け、10月の食品ロス月間に合わせ、市内のスーパー等で、未使用のまま捨てられやすい食品の保存方法や食材を使い切るレシピ等を掲載した啓発ポップを掲出しました。

また、家庭から出る食品ロスを日記形式で記録し、気づきのきっかけとする「食品ロスダイアリー」の普及を図るため、モニターとして参加いただいた方に抽選で賞品が当たるキャンペーンを実施したほか、仙台市図書館と連携して、食品ロスの関連図書や「せんだい食品ロス削減ガイドブック」等の企画展示を行いました。



▲スーパー等に掲示した啓発ポップ

### ②フードドライブの実施

本市では、家庭の未利用食品を集めてフードバンク団体等に提供するフードドライブを平成30年度から実施しています。回収拠点の設置や食品の運搬に、民間企業・団体の協力を得ながら実施しており、令和3年度は約19tの未利用食品を回収しました。



商業施設に設置した未利用食品の回収拠点▶